ドイツと バンドーの 友好の架け橋。

それは、1917年から1920年までの３年間
ドイツ兵俘虜と板東の人々との
あたたかい交流から始まりました。
アジアで初めての第九全楽章演奏や
先進的なドイツの技術や文化にふれ
友好が深まっていきました。
当時のドイツ兵の暮らしや板東の人々との交流の様子を
後の世に伝え、ドイツとの国際交流を深める目的で
鳴門市ドイツ館はつくられています。

Deutsches Haus Naruto

鳴門市ドイツ館

不思議の国の
BANDO

The Naruto German House
鳴門市ドイツ館

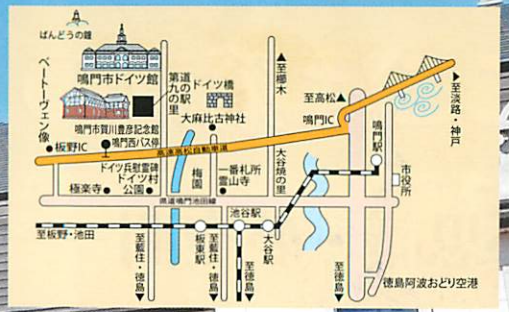
ご利用案内

〒779-0225　鳴門市大麻町桧字東山田55番地の2
TEL.088-689-0099　FAX.088-689-0909
e-mail　info@doitsukan.com

●開館時間●
午前9時30分～午後4時30分

●休 館 日●
第4月曜日（ただし、祝日の場合はその翌日）
年末　12月28日～12月31日
※休館日については変更することがありますので、あらかじめご確認ください。

●観 覧 料●
大人：400円　　小人（小・中学生）：100円



●アクセス
・車　　：藍住ICより10分、板野ICより7分
・JR　　：板東駅より徒歩20分
・高速バス：鳴門西下車　徒歩15分
・路線バス：JR徳島駅より徳バス 大麻線大鳥居下車 徒歩10分
　　JR鳴門駅より徳バス 大麻線ドイツ館下車
・徳島阿波おどり空港よりタクシー30分

●第九シアター
当時のドイツ兵たちの音楽活動が紹介されます。
等身大の人形が、演奏を聴かせてくれます。
初演は午前10時～(15分間)、後30分おき。
終演は午後4時半。

ここは第九のふるさと

不思議・夢空間――BANDO

リューネブルク市庁舎
Luneburger Rathaus

姉妹都市リューネブルク市と

1972(昭和47)年に旧ドイツ館が建設され、1974年には鳴門市とドイツ・リューネブルク市との間で姉妹都市盟約が締結されました。
それ以降、両市は相互に親善訪問団を派遣するなど、国際交流を活発に展開するようになりました。
鳴門市では、ドイツ村公園の建設を始め、ドイツと共同でドイツ兵士合同慰霊碑(1976年)や、ばんどうの鐘(1983年)などを建立し、1993(平成5)年には新しいドイツ館が完成しました。

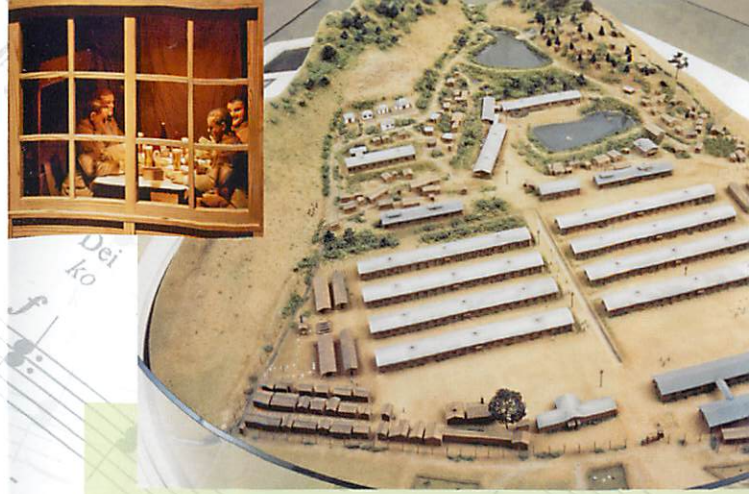
当時の俘虜の生活を、本物そっくりに再現。
今にも動き出しそうです。

板東とドイツと第九

収容所での俘虜(ふりょ)たちの活動は実に多彩でした。
音楽面では、複数のオーケストラや楽団、合唱団が定期的にコンサートを開き、さまざまな曲を演奏しました。
なかでも、ベートーヴェンの交響曲第九番をアジアで初めて全楽章演奏したことは有名です。
このほか俘虜たちは、演劇、スポーツ、講演・学習など活発な活動を行っています。

演奏会の練習をしたり、読書やゲームを楽しんだり
収容所での自由な生活がうかがえます。

キャンバスに、俘虜たちと地域の人々との
交流の様子が映し出されます。



なぜ鳴門にドイツ兵俘虜(ふりょ)が？

第1次世界大戦が始まると、日本も参戦し、ドイツの租借地だった中国の山東半島にある青島(チンタオ)を攻撃しました。
敗れたドイツ兵士約5,000人が俘虜となり、日本各地の収容所へ送られました。その内、四国の徳島・丸亀・松山にいた約1,000人が1917(大正6)年から1920年までの約3年間を板東俘虜収容所で過ごしました。

隣人としてのドイツさん

地域の人々は、俘虜たちの進んだ技術や文化を取り入れようと牧畜・製菓・西洋野菜栽培・建築・音楽・スポーツなどの指導を受けました。
そして板東の街並みでは、俘虜たちを「ドイツさん」と呼び、彼らとの間で日常的な交歓風景があたりまえのようにみられるようになりました。